

令和 7 年度学校評価報告書

令和 8 年（2026年） 3 月 23 日

北海道教育委員会教育長 様

北海道北見商業高等学校長

次のとおり令和 7 年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

○学習意欲とコミュニケーション力を高める教育活動の推進
○業務量軽減に向けデータ管理の徹底と共有化の実践

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	○朝学習と I C T 活用により、家庭学習の習慣化と基礎反復の機会確保、学習意識の向上が進んだ。 ○電子黒板やデジタルツール活用が浸透し、課題配信や意見共有など授業改善が進展した。	○地域と連携・協働した取組により、高い学習効果を得ている。また、学習の取組が地方活性化等の地域貢献につながり、高く評価されている。 ○商業教育で学んだ知識や技能を活かして、大いに地域で活躍している。
改善方策	○ I C T を活用した授業について、実践例等情報共有によって活用の促進を継続し、定期的な啓発を行い、更なる研修の機会等を設け、授業力の向上を図る。 ○基礎・基本の定着に向け、朝学習等において学習ツールを有効に活用し、個々の進捗状況を把握し、個別支援を行いながら基礎学力の定着を図る。	
生徒指導	○生徒個々の人間関係に関する課題の解決方法や情報モラルに関する指導の在り方について、効果的な指導に向けた研修の必要性がある。 ○支援が必要な生徒について、校内外連携による組織的な支援体制の構築が必要である。	○時代に即した指導の在り方について工夫が必要である。 ○生徒の多様性を理解し、きめ細やかな生徒指導に努めながら、生活指導や教育相談等が十分に行われている。
改善方策	○生徒指導部会や学年部会での情報共有を深め、本校の生徒指導に関わる課題に対して共通認識を持ち、統一した指導を展開する組織体制を構築する。 ○特別支援に関する生徒対応と教員研修を深めるため、専門機関との連携を強化し、事象に対応できる組織力を高める。	
進路指導	○進路ガイダンス等、外部機関や講師の活用により、進路実現に向けた多くの視点からの進路指導が実現している。 ○個別支援体制の確立と、進路指導に係る組織的な指導体制を構築する必要がある。	○多様な生徒の進路希望に対応した進路指導が実現している。 ○商業教育で身に付けた能力を発揮して、地域で活躍している人材を多く輩出している。
改善方策	○保護者等との連携と、生徒全員に対する個別支援を組織的な指導体制で強化することにより、生徒の多様な進路希望に応じた指導の充実に努める。 ○外部機関を有効に活用し、早期段階から進路実現に向けた意識付けを行う。	
健康・安全指導	○感染症対策や熱中症対策など、効果的な対策について研修を深める必要がある。また、校内環境整備を図る必要がある。 ○外部人材を活用し、問題に対する早期サポートに心掛ける	○健康維持のための学校環境整備が必要である。 ○外部機関と連携しながら、良好な人間関係の構築に努め、生徒が健康で安全な生活が送れるよう指導されている。
改善方策	○事故の未然防止に努めるとともに、危機管理や安全に対する意識向上の指導に当たる。	

公表方法	○学校評議員、学校職員へ学校評価集計結果の報告と文書を配布 ○学校ウェブページに学校評価集計結果を掲載
------	--